

# 巻頭言



京都市長 門川 大作

## 国際交流で世界を平和に

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻をはじめ、世界では、国家間の対立、人種や民族、文化、宗教等の違いを巡る紛争が絶えず、国際社会の分断は深刻化しています。

このような時にこそ、都市間・市民間の国際交流により、相互理解を深めることが一層重要になっていきます。

京都市では、昭和53年に「世界文化自由都市」を宣言。「全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここにつどい、自由な文化交流を行う都市」を理想像とし、この宣言を市政の最上位の理念に位置付け、都市経営を行ってまいりました。

同宣言の趣旨の具体化の一つとして、私が会長を務め、本市が事務局を担う「世界歴史都市連盟」があります。同連盟は、歴史都市の更なる発展と世界平和の実現に向けた貢献を趣旨として設立された都市組織（令和5年4月現在、65箇国・地域から128都市が加盟）。歴史都市という共通の絆で結ばれた都市間の交流や情報共有などを目的に、継続的に歴史都市会議を開催しています。

直近では、令和4年11月に韓国<sup>アンドン</sup>の安東市で、「コミュニティに根差した未来志向の歴史都市」をテーマに会議を開催。多くの都市が交流を深めました。また、同会議期間中に実施した総会では、国際社会の分断が深刻化する中、都市同士の連帯や、紛争等で苦しむ歴史都市への支援・呼掛けを行っていくことを誓う「平和連帯声明」の発出を私から提案させていただき、連盟の総意として決定されました。

さらに、本市では、半世紀を越えて市民ぐるみで交流を深めてきた姉妹都市キーウ市をはじめウクライナに対する支援を続けています。

キーウ市に対しては、市民の皆様などからお寄せいただいた寄付金を、人道支援や文化・生活の復興のためにお送りするとともに、厳寒期には、寄付金の一部を活用して防寒対策物資（災害時用毛布及びカイロ（使い捨て））をお届けしました。

また、本市に避難しておられる方々に対しては、企業・団体や市民の皆様との連携・協力の下で立ち上げた「ウクライナ・キーウ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」において、ワンストップ窓口を設置し、生活支度金の御提供、住まい・就学・就労・日本語教育のサポートなどを行っているところです。

本市では、今後も市民の皆様と共に国際交流の輪を広げ、京都から世界の平和に貢献してまいります。